

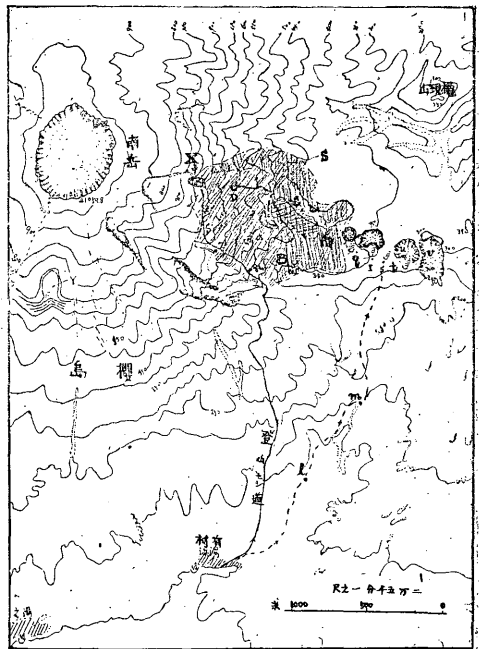
櫻島火山活動調査報告

岡部 龍信

1. 新火口踏査路

新火口の場所 X (第 1 圖及び寫眞 1 参照) へ達するには有村からのぼるのが最もよい。有村から大正熔岩流の上を北北東～北にのぼること約 2 軒、この邊から路を北西にとつて約 500 米のぼり (第 1 圖 Z), 更に北の方向に約 500 米上つて新火口に達した。尤も路らしいものはない。殊に海拔 350 米附近から上 (第 1 圖 Z) は高さ約 1 間半位の灌木林であつて、地面は火山灰砂でザクザクしてゐる。その上、山の傾斜が 30 度乃至 35 度の急斜面である。灌木の根元を掴まへながら這ふやうにして登山したのである。この附近の降灰は相當多量にあり、一行 6 名の先頭が通過すれば忽ち白煙濛々として視界をさへぎり、丁度目つぶしをされた感があり、一同火山灰に埋もれながら登つた。

第 1 圖 新火口踏査路



新火口の外觀及び内部は寫眞 2 及び寫眞 3 の通りである。

尙前記踏査路及び附近この方面には所々に噴氣があつた。何れも硫氣孔で、海拔 550 米の D 點では噴氣孔中約 30 纏の所で 76°C あつた (第 1 圖及び第 1 表参照)。

第 1 表 新 火 口 斜 面 の 噴 気

噴気孔	噴気孔の海拔の高さ	噴気の温度	測定年月日 昭和14年11月	備 考
D	550 米	79 °C	日 時 分 13 15 40	噴気孔中に約 30 種挿入して測定。
d	420
p	395	54	12 13 40	地表面
q,r,s,t	360~310	55	12 13 00	地表面附近
w	350	45	13 17 30	地表面附近、割目から噴気、硫黄昇華物附着

2. 新火口の噴出物と山林の被害

新火口から噴出された岩石類(寫眞 4 参照)は主に東から南東へ落下したやうである。第 1 圖中 S 内は火山礫の落下した範圍, S の内部の B 附近では抛出された火山礫や赤熱熔岩片(山麓で火の粉が落下するのが見えた)が觀測された。而してこの部分の松林や灌木林は皆赤く變色してゐるが、焼けてはゐない。併し所々に焼けた熔岩片が落下して、枯すすきを焼いたりして小さな山火事を起して木が枯れてゐる所もある。抛出されて火山灰砂地の山の斜面上に落下した岩片は幾分砂地に埋まつてゐる(寫眞 5 参照)。海拔 400 米の斜面上の灌木林中の地點(第 1 圖 n)では、抛出岩のために松の木が1本地表から1.5 米の高さの所から切りとられてゐた、その切口は直径 64 糎の圓形で、S 24° E の方向に倒れてゐた(寫眞 6 参照)。

C は一寸した谷で、爆發の際に抛出された熔岩等が火山灰砂礫等と共に山の斜面を走り下つた部分である(寫眞 1 参照)。此處では噴出物流のために樹木は根まで皮を剥ぎとられ(寫眞 7 参照)、それよりもまだ幾分助かつてゐるのは寫眞 8 の手前の灌木林である。之には勿論葉は全然なく、幹や枝の部分も所々皮が剥がれてゐる。噴出物流の末端附近では樹木等は埋められてゐる。

尙踏査中觀測された今回の抛出岩類を第 2 表にあげる。藏重氏記事を併せて

第 2 表 抛出岩片(昭和 14 年 11 月 13 日測定)

落下地點 (海拔米)	形	大 き さ	備 考
390	略楕圓形	長徑 80 糎, 短徑 50 糎	「やしゃぶし」林の中に落下 傾斜 30 度の火山灰斜面上に直立し地面上 に 18 糎出て、地面下に 3 埋まつてゐる
480	略正三角形	1 邊の長さ 14 糎	

参照せられたい。

結 び

1. 櫻島殊に鹿児島市から見えないその東側方面の火山活動観測のために、有村から古里の間附近に火山観測所を常置せられたい。
2. 櫻島東側斜面の火山活動観測のやうに、急傾面で且途中に灌木が密生してゐる場合には、大體次のやうな準備が必要と思はれる。
(イ) 輕快なる登山服装, (ロ) リュックサック, (ハ) ピッケル, (ニ) 組合せナイフ, (ホ) 地圖入れ小鞆(地圖入り), (ヘ) 時計, (ト) ストップウォッチ, (チ) 食料と水, (リ) 水筒, (ヌ) 野帳(方眼紙が便利である), (ル) 鉛筆(黒・赤・青), (ヲ) 望遠鏡(ワ) 寫眞機(ロールフィルム用)及びロールフィルムと寫眞機用フィルター, (カ) 活動寫眞機, (ヨ) カバー付き最高式高温寒暖計(50°C迄, 100°C迄, 50°C迄の3種類), (タ) 携帯用六分儀, (レ) 卷尺(50米・1米の2種類), (ソ) クリフメーター, (ツ) ルーペ, (ネ) 岩石採集用ハンマー, (ナ) 岩石採集袋, (ラ) 急救藥品類, (ム) 鐵兜。

以上報告を終るに當つて御指導・御鞭撻を賜はつた福岡氣象臺長須田博士並びに現地で色々御厄介になり且御教示を賜はつた鹿児島測候所長藏重一彦氏に衷心から感謝の意を表します。